

甲種危険物取扱者への取り組み

電子機械科 家村正敏

1. はじめに

本校電子機械科は、1年次から危険物取扱者乙種4類や2級ボイラー技士などの国家資格に取り組み、2年次では第2種電気工事士の国家資格に取り組んでいる。昨年度は2年生が第2種電気工事士の国家試験で、約95%の合格率を出して、県内でもトップクラスの結果を収めた。その他にも第1種電気工事士や第3種冷凍機械責任者など、数多くの国家資格の合格者を出している。

今年度も数多くの国家資格に挑戦したが、その中で、甲種危険物取扱者の取り組みについて紹介したい。

2. 危険物取扱者について

一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければならない。

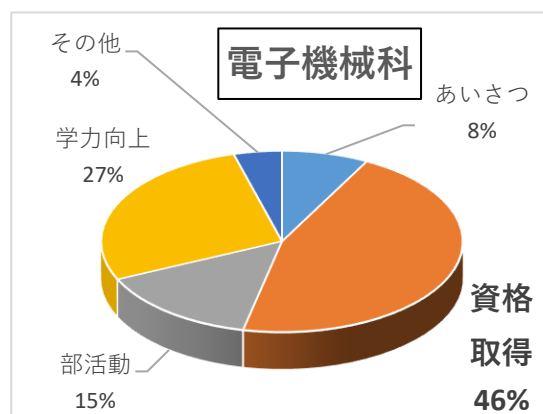
免状は丙種、乙種、甲種危険物取扱者の3種類に分かれ、丙種危険物取扱者は、特定の危険物（ガソリン、灯油、軽油、重油等）に限り、取り扱いと定期点検ができる。乙種危険物取扱者は、指定の類の危険物について、取り扱いと定期点検、保安の監督（要実務経験）ができる。甲種危険物取扱者は、すべての危険物について、取り扱いと定期点検、保安の監督（要実務経験）ができる。

3. 甲種危険物取扱者の受験資格について

丙種と乙種危険物取扱者は誰でも受験できるが、甲種危険物取扱者は、大学等において化学に関する学科等を修めて卒業した者や、乙種危険物取扱者の免状について4種類以上交付を受けている者など、これらに該当しなければ受験できない。今回受験した生徒は、2名は乙種を全類取得しており、1名は乙種を4種類取得していることから受験資格を得ることができた。

4. 甲種危険物取扱者を指導するにあたって

下記データから読み取れるように、本学科の生徒は高校入学時に資格取得を目標にしていた生徒が多い。その理由として就職活動に有利であるということがあると思う。2年次からクラスを担当してきたが、一致団結して、互いに協力し合いながらよく取り組んでくれている。しかし、今まではクラス全員受験などの取り組みで受験していたが、甲種危険物取扱者を受験するにあたっては、個別に対応することになり、達成するという強い気持ちと継続力が無ければ困難である。また、専門外の内容が多く、学習するにあたっては時間を要し、自宅での取り組みが不可欠であるということを伝えた。し



平成30年度 進路セミナー データ
質問：吹上高校は何に力を入れるべきか？

かし、生徒達の意見は、「難関資格に挑戦して、憧れの企業に確実に就職したい」とのことであった。3年生になり、最後の高校総体予選や、仮評定に影響することになる中間考査と両立させながら取り組むことになった。

5. 具体的な取り組み事例

試験内容は筆記試験で、①危険物に関する法令、②基礎的な物理学及び基礎的な化学、③危険物の性質、並びにその火災予防、及び消火の方法の3つの科目に別れる。自分が受験した経験上、圧倒的に時間を要する科目が、②基礎的な物理学及び基礎的な化学で、工業高校という工業化学科で履修する内容が含まれるため、この科目について、いかに重点的に補習を行うかに絞った。それ以外の2科目に関しては、各自のペースで家庭での学習を主として行った。3月から市販のテキストを用いて取り組み、部活動の練習や中間考査の勉強と両立させるように計画的に取り組ませた。2年次に多くの国家資格の補習をしてきたことにより、自主性や主体性が身につく、すべてをサポートしなくても、やり方を教えれば、各自で取り組むことができる実力がついてきた。

6月の試験に向けて各自計画的に取り組ませてきたが、やはり、②基礎的な物理学及び基礎的な化学で生徒達は苦戦しており、試験前2週間は、徹底的に物理や化学の計算問題の解き方を説明した。生徒達は最後まで全力を尽くして努力したが、試験前日は今までの国家資格の受験とは違う緊張感を持っていた。

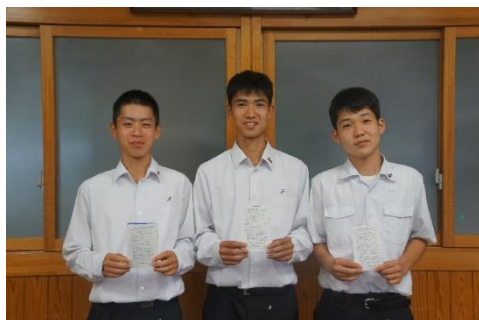
6. 取り組みの結果

今回3名の生徒が受験したが、3名ともに合格であった。鹿児島県の合格者は17名（うち高校生8名）で、合格率は37%であった。県内の工業高校生で、工業化学科以外の学科での合格者は本校生のみであった。

7. おわりに

今回の甲種危険物取扱者の指導を通して感じたことは、生徒のやる気とモチベーションの高さである。心身ともに疲労の限界の中にもありながらも、部活動と資格取得を両立させ、目標に向けて全力で取り組む姿に感動した。また、志を持った有望な人材を育成できるように、自分自身も生徒と切磋琢磨しながら努力をしていかなければならないと感じた。

今回の指導にあたり、部活動の顧問の先生方をはじめ、多くの方々にご配慮並びにサポートをいただいた。周囲の方々の激励や声援があったからこそ、生徒達は全力で目標に向けて努力することができたと思う。関係者各位に感謝の意を表す。



合格者：左から前田君，内原君，黒江君

令和元年7月12日 南日本新聞